

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200080		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホームきら		
所在地	愛知県西尾市吉良町吉田山中6番地1		
自己評価作成日	平成31年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kanji=true&keyno=2393200080-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	名古屋市守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺は田園が広がり、窓からの景色はのどかな風景とともに四季を感じられます。建物は木を使い、廊下、リビングは畳を使用しており、温もりを感じるような作りをしています。リビングに集まりたくなるような、そして、気楽にあばあちゃん家に遊びにきた！と思ってくれるようなホームを目指しています。隣の自動車屋さんともなじみの関係が出来つつあり、町内の事の相談相手、情報提供を頂け、町のイベントごとやイベントの出店に協力して下さっています。地域の行事お祭りや盆踊り参加、地域の保育園児と行き来し交流を図ることも恒例になっています。毎年参加しています「きらまつり」市のイベントへ参加。利用者様と一緒に3食いろいろ作りし、利用者様が売り子になり出店し50バック完売です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからは遠いのが何一つない田園風景が広がっており四季を感じる事が出来る。ホームは廊下の中央やリビングに畳を使用した天井の高い木造の平屋である。床暖房の設備があり履物の使用は思い思い自由である。鍵をかけない解放感があり、廊下には見守り支援が可能でありながらプライバシー確保が出来る長椅子やミニ図書コーナーがある。利用者主体の日常が営めるよう管理者をはじめ職員は手を出し過ぎない、出来る事が自信や喜びとなるよう取り組んでいる。開所から法人の理念である「こころのびのびからだいきいき・いのちきらきら」を支援している。職員の離職は殆どなく利用者・家族・職員共に安定したホームとなっている。ホームで最期を迎えたいとの要望があった時、何時でも家族が宿泊できる設備がある。法人内に特別養護老人ホームがある、総合病院との協力体制、かかりつけ医の訪問診療が整っている事で家族のみならず職員の安心にもなっている。法人内で電子化を導入して情報共有が出来る事で学び多い環境となっている。避難訓練は実践して見えてくる課題や二次災害に合わない工夫を身をもって体験しているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価	外部評価	項目	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが見学対応が出来ることでグループホームの理解が出来き、また理念の元、「今日も1日良い日でした」と言って頂けるように実践している。また職員手帳があり、施設内に理念を掲示している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ出し、資源ごみは地域自治体へ出している。地域の行事、盆踊り、お祭りなどにも積極的に参加している。地域の方との交流の機会ともしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校へボランティア依頼し参加して頂け、中学生の福祉体験の受け入れも行なっている。地域の行事「きらまつり」へも毎年出店しご利用者に売り子になって頂いている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催。ご家族、お米屋さん、民生委員さん、市役所長寿課、地域包括等参加して頂いている。事業所の活動報告し最後に一言ご意見を頂く様にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回介護相談員来所。2ヶ月に1回運営推進会議の開催し、地域包括、長寿課、民生委員、お米屋さんに参加して下さり、事業所の報告、意見を頂戴し今後役に立っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束について法人内で学ぶ機会がある。施錠をしない自由な空間づくりを工夫している。スピーチロックについては難しい問題と捉えている。「何かあったの」とスタッフ間で尋ねる事が出来る環境づくり、スピーチロックを考えてみよう。言い方を考えてみよう。等の目標を持って総会やスタッフ会議に話し合っ取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内学習会があり、虐待防止について学び、入浴時にも全身の観察を行なっている。またスピーチロックにも努めている。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元保証人制度を学ぶ機会がなく、また今までも身元保証人制度を活用する方がみえなかった。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金、加算の改定がある時には運営推進会議での説明、各ご家族へ文書でもお知らせを郵送している。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議、運営推進会議にご家族、ご利用者から意見を伺い、運営に反映。今年度10月の運動会参加ご家族へ家族アンケート実施し集計し全ご家族へ結果報告している。ご意見箱を設置している。	運営推進会議の際、担当者会議の機会等に利用者・家族から意見を頂くようにしている。面会時に職員から面会者に声かけを心掛ける。運営推進会議で頂いた意見やアイデアは運営に反映出来る様実践に取り組んでいる。立地条件から「津波」を想定した避難訓練の意見があり、実践して学ぶ事は多かった。二次災害を予防し、ホームの現状に合った非難が実感できた。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングで意見交換の場としている。また、半期に1度人事考課、管理者と面談をしている。年に1回法人全体で自己申告書の実施し意見を記入する機会がある。	管理者は利用者一人一人の思いや特性を目配り気配りしていると同時に職員間へも目配りを実施している。一人一人の職員に合う言葉かけや意見を引き出せる機会を心がけチームで支援できる環境で頑張っている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時に就業規則、各種届出等の記入の説明がある。法人目標に沿った個人目標設定しグループごとでの目標設定し実施している。毎月目標の進捗状況の確認をし成果を出せるように努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの力量にあわせて研修、学習会への参加の機会を作るようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会等の参加出来る時には参加して頂き、また法人内グループホームの合同大運動会の開催。他事業所のスタッフと実行委員を作り交流も兼ねて行っている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族へ要望や不安を伺い、寄り添い安心した暮らしが出来る様にインテーク後の入居判定会議を実施し、必要とするケアを考え、リスクを話し合っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込、入居時にお話を伺っている。入居後もこまめに様子をメールや面会時にお伝えするようにしている。安心して利用して頂けるように関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の悩みや要望を聞き入れ必要としている支援を考え、ケアプランを作成している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を発揮し生活して行きながらケアで接することでスタッフ自身も学んでいる。出来る事は出来るだけ行なって頂き、出来ない事は支援させて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や様子をメールや電話でお伝えし、月に1回のホームからのお便りを発行している。ご家族の協力を得て月に1回お墓参り、自宅の仏壇へお参りしている人もいます。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り時にご自宅へ寄ったり、行きつけの理美容店等出来る限り行っていただけるようにご家族に協力を得ている。	ほぼ毎日近くのスーパーへ買い物に出かけた際、顔見知りの人と挨拶や近況の言葉を交わす機会は少ない。喫茶店や美容院に出かける事も家族の協力を得ながら継続できる支援に努めている。商店で買い物をすることがあり、新しい関係性が馴染みの関係となっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならない様に席の配慮や、車内の席のを考えている。利用者同士の関係も考えて買い物へ出かけている。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別事業所へ行かれる時も、相談等伺い、スムーズに他事業所へ移行、移動できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望や訴えがあれば記録に残し希望に添えるように取り組んでいる。サービス担当者会議の際にもご本人、ご家族から要望を伺う様になっている。MTで検討したり、24時間シートへ反映させている。	起床はそれぞれ違いはあるがその他の日常のリズムは無理なく定着している。村人(利用者)さんの声かけで役割を実行している場面があった。本人の意向や出来る事を検討し、一日に一回はキッチンに立つ役割や責任を持っている。生活の主役は村人(利用者)さんを基本に職員は傍役を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご本人、ご家族から聞き、また記入して頂き把握している。また、入居前のサービス経緯等も併せて情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し記録に残している。サービス担当者会議の際に見直し、過ごし方について検討している。また、現状維持、有する能力を出来る限り発揮して頂ける様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のモニタリング、カンファレンスを実施し課題について話し合っている。受け持ち担当者がケアプランの見直し、変更等を行い、概ね6か月に1度のサービス担当者会議の実施しご家族と共に話し合いをしている。	計画作成担当者は介護支援専門員の資格を有して全体を管理者と共に統括している。受け持ちの職員が月、一回のモニタリング・ケアカンファレンスの結果介護計画書の見直しが必要であると意見が出る時は変更している。職員は一人一人の現場を把握し、カンファレンスで話し合い現状に合った介護計画となるよう協同している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を24時間シートに沿って電子カルテに様子を入力する。重要と思う内容はレベル設定し分かりやすいように示している。職員間の情報共有の中で必要に応じては申し送りノートの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	太極拳、写経等が外部ボランティアにより支援している。地元の保育園との交流の機会もある。また地元の高校へボランティアの呼びかけ、学生、先生が運動会へ参加して頂いている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用や外部ボランティアを活用、繋がりを持って生活出来る様に支援している。地域のスーパーや喫茶店に出掛けたり、近所の味噌屋さんへ買い物へ出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療時には看護師と介護スタッフが立ち合い、日頃の様子を伝えるようにしている。専門医への受診が必要時は御家族にて受診協力を得ている。	かかりつけ医は家族に入居時に確認し、ホームの協力医の訪問診療を受けている。他科受診は家族でお連れいただくようお願いしている。 協力医はオンコール体制で、また法人内の介護職員が週に2~3回ホームを訪れており、医療面での安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時の早期発見に努め看護師へ報告している。必要に応じて受診対応や主治医への相談している。看護師不在時でも電話相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報共有や退院調整は主に管理者が行なっている。市内病院、受診時、救急搬送時の共通の情報用紙がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「事前指定書」を説明している。入居を機に今後の事を考えて頂く様にしている。概ね2年に1回で再確認。また体調やレベル低下等見受けられる時にはその都度確認し更新している。	終末期については入居時家族に考えていただき意見を聞いている。医師との連携も取りやすい体制にあり、家族の宿泊部屋を確保することができるので、看取りの希望があった場合には対応していきたいと考えている。同一法人の特養の看取り経験を共有することもできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内学習会あり。特変や急変時にフローや本、緊急対応手順書はある。看護師による窒息シュミレーションの実施し、身に付ける様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常ベルを鳴らす火災訓練時には地域へ回覧板を回し、地域の方へお知らせしている。実際に火災が起きたときには協力依頼を記載している。地域の防災訓練へは参加できてない。	年2回以上、夜間(火災)、津波と河川氾濫想定での避難訓練も行った。火災の避難訓練の際も、火元を事前に設定せず実践的な訓練になるように努めている。 災害時の地域連携は今後の課題としたい。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに関しては理解出来ている。部屋へ入る時にはノックをしている。排泄時にもプライバシーを損なわない様に声掛けしている。	プライバシー確保のため、面会制限、写真使用、等入居時に確認している。声かけ等、常に目上の方であることを意識して対応しているが、コミュニケーションを重視し、あまり堅苦しくなく、わかりやすい言葉や方言も使って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛け、食べたいものをお店で一緒に選んだり服を一緒に選んだり、ドライブの行き先を決めて頂いている。掃除、家事等をはじめ行なって頂けるような依頼系の言葉使いをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゴミ捨てや買い物へ行く際もご本人へ意向を伺い同行していただく。入浴時間も希望時間を伺う様にしている。その人のペースに合わせて臨機応変にその人の気持ちに沿ったケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容院へご家族が同行して行かれている方もいる。毎朝髭剃りの実施、入浴時にネイルケアを行っている。衣類の取り扱い表示を見て洗濯洗剤を使い分け、ズボン、上着は外干し自然乾燥をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考え買い物、調理も一緒に行っている。食事前の口腔体操の実施。嫌いで食べれない時は別の物を提供することもある。行事を大切に誕生日には赤飯、お祭り時には箱ずしを作っている。食中毒予防にも努めている。	職員や業者が考えたメニューではなく、入居者と一緒に何を作ろうか考え、一緒に買い物へ行き、一緒に調理をしている。一人一人できることで食事の準備や片付けに関わっている。イベント料理や外食など、食を楽しめる工夫に努めている。食中毒防止には細心の注意を払っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床後、外出後、入浴後、その他定期的にお茶や補水(0s1)を提供している。週に2回手作り寒天やゼリーの提供し水分確保している。食事が少ない方はプリンや栄養ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアのお誘いし、曜日でポリデント洗浄を行い、義歯の清潔にも努めている。口腔ケア用品も定期的に消毒、洗浄や交換をしている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し失敗を減らすように努めている。時間帯により下着の使い分け、日中は布パンツ、パット使用し定時でお誘いし、排泄の失敗がある時には入浴へお誘いすることもあり、清潔保持にも努めている。	一人一人の排泄パターンやサインを把握し、必要に応じて声かけをし、うまくトイレ誘導している。失敗してしまった際もさりげなく声かけをして風呂へ誘導するなど羞恥心への配慮を十分に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後、朝食前に白湯の提供し、腸の活動が良くなるように努めている。昼食、夕食にはご飯にもち麦を混ぜている。また週3日朝食後にヨーグルトの提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を伺い、なるべく希望時間に沿って入浴できるようにしている。2日に1回入浴できるようにお誘いしている。	入浴の時間帯は決めずに、入居者の希望の時間を聞くなどして順番を決めている。ミョウバン水を活用し、乾燥肌、加齢臭対策をし、清潔保持に努めている。季節に応じたゆず湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いに居室やリビングで過ごされている。本人の意向や意志に沿って日中静養されている。週に1回シーツ交換、布団干しを、居室掃除を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更した際は状態変化を観察し情報共有している。内服服用後の状態、様子を詳しく記録へ残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やカードゲーム等出来る様に声かけ、意志に沿って行なっている。誕生日月には誕生日者とスタッフと外出、外食、お好きな所へ出かけている。月により全員で外食や喫茶店へ出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて散歩やドライブを行っている。誕生日月には馴染みのあるお店や希望する所やお墓参りへ出かけている。また衣類など個人の物を購入するときはご本人と一緒にいるようにしている。	近くにスーパーマーケットがいくつかあり、ほぼ毎日の食材やおやつ、日用品を買いに入居者と一緒に出かけている。時間があれば喫茶店へ出かけたり、季節の草花を見に出かけることもある。家族の協力も得て、なじみの店へ外食に出かけたり、同一法人の特養の美容室へ出かけることもある。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホームの金庫で管理している。希望あれば欲しい物を購入している。出来る方はレジにて支払いをして頂けるように支援している。ほぼ毎日買い物へ出かけて一緒に支払いをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望あればかけて話しをされている方もみえる。ご家族より手紙が郵送されてきたり、電話が掛かってきて話される方もみえる。ホームからは毎月お便りで本人の様子、写真やコメントを添えてお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、ダイニング、廊下が仕切れるようになっている。必要に応じて仕切りを開閉している。季節により花や野菜を植え、眺めたり収穫し食べている。	高い天井で採光が豊か、広い中庭もあり、木材をふんだんに使った建築で明るくあたたかな空気が流れている。リビングから居室へは畳敷きの廊下でつながっており、その廊下にもくつろげる椅子が多くあり、入居者の団欒の場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子が2か所あり、日向ぼっこされたり、談話されたり、一人の空間としても利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や好みの物を持参して頂くよう依頼している。家族の写真を飾ってみる方もいる。年末の大掃除にはご家族と一緒にこなして頂いている。	ホームではエアコン、クローゼット、カーテン程度を準備しているが、家具や寝具などは使い慣れたものを持ち込んでいただいている。敷き畳で布団で寝ている方もいらっしゃる。居室はあえてリビングとは離れた位置に設計しており、プライベートな空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「ひやりはっと」「事故報告」をあげ是正処置案を話し合い事故防止に努めている。時にPTに相談したりしている。人により出来事をカレンダーや手帳に記載している。リビングには献立や日課を表示している。		